

な か ま

発行
佐倉市立中央公民館
なかま編集係

〒285-0025
佐倉市鍋木町 198-3
電話 (043) 485-1801

2 ページ	子ども時代	梶谷 羊子	世界遺産エジプトを訪ねて	阿倍ヨシ子
3 ページ	孔子像と楷樹	松井 弥彦	殺人事件とオス	奈良 雅広

遠い夏の日の記憶 (2)

岩淵 幸雄

敵グラマン戦闘機の銃撃を間一髪で躲し、九死に一生を得た日から一週間後の昭和二十年七月二十八日。校舎を空襲から守るための宿直の夜がまたやって来た。非常食の夕飯を済ませ、そろそろ寝ようかと教室の机を片付け始めた九時過ぎ、警報だ。やれやれ防空壕かと歩きだしてすぐに聞こえてきたB 29の爆音。だ

がいつもと違う。町中が押し潰される様な凄まじい音。月のない真つ暗闇の空からの爆音に、校舎は震え、窓ガラスがピリピリと唸りを上げる。こんな大編隊は初めてだ。

八甲田山を越え頭上を通り過ぎ津軽湾へ抜けた爆音が左へ向かい、やがて旋回して西からやって来た。敵乍らさすが、青森市街は東西に細長く展開しているのだ。

もうすぐ市内上空だ。身を引き締めて暗闇を睨んでいた時、ツーッと落ちて来た小さな灯が、突然の煌めき。照明弾だ。思わず首を竦めた。これでは灯火管制も全く効果ない真昼の様になる。次の機から亦落ちてきた赤い灯が突然パラパラと幾つかに分かれ、間もなく一斉に大音響と共に爆発し、炎の滝となつてゴーっと地上に降り注ぐ。燃え上がる大火災の反射でB 29の姿がはつきり見える。十機、二十機それ以上数えられぬ程の爆撃機が次から次へと炎の滝を降らせ乍ら市内の先へ先へと進んで行く。

だ。

それにしても、いつまで続けるんだ。もう真夜中過ぎて次の日になつているといふのに、これでもかこれでもかと降らせ続ける油脂焼夷弾。もう燃やせるものは無い。全部燃え尽きているのに、そんなにまで日本が、日本人が憎いのか。これ以上は無駄弾だよ。

いつしか爆音も去り、市内上空の煙を見つめているうち、やつと夜が明けた。

「帰つてよし」教官の許可で急ぎ校舎を出、国道まで走つて驚いた。何もない。この角は酒屋、隣りは八百屋だったのに、水道管がニョキッと立っているだけ。先は煙で見えないが、道路とドブ川を頼りにやつと辿り着いた我が家。畳がきれいに灰となつてその面影を残していた。他には何もない灰の山。身体ひとつと学校のカバンだけが残り、呆然と立ち尽くすこと暫し。

(編集委員)

子ども時代

「子ども達だけ先に行かせていいかしら」との電話。

六年生と四年生の二人の男の子の孫が、リュックをしょって横浜から初めて電車に乗ってやってきました。

五歳と一歳になる次男の子二人が加わり、四人の子ども達、それはそれは賑やかです。

こんな時、自分自身が子どもだった昔々のことを思い出します。出雲の田舎、簸川平野が一望できる小高い山の中腹にあった母の実家。広い庭で、たくさんのおや姉妹と一緒に石けりや縄とびに夢中になったこと。祖母が、前掛けの中からそっと出してくれたみかん。そのうれしさ。大好きなおばあちゃんでした。今でも、思い出すと何とも懐かしく、心癒されるひとこまです。私の心の「原風景」のひとつになっています。ふっと思うのです。この孫

達も何十年か先に、我が家でのことが心の奥に残り、「楽しかったなあ」と思い出せるひとこまとなるのかなあと。童話作家の石井桃子さんの言葉です。

「子どもたちよ。子ども時代をしつかりとたのしんでください。おとなになつてから、老人になつてから、あなたを支えてくれるのは、子ども時代の『あなた』です」。

三、四日続いた十人家族。その後は、ふとん干しや洗濯、掃除と大変。どつと疲れを感じたりもするのですが、「おいしい野菜を作つて食べさせてくれてありがとう」。「いつもいそいそ所に行かせてくれてありがとう」。孫から届くフアックスの絵入りお手紙で、疲れはどこかへふき飛んでいってしまうのです。

(大蛇町 梶谷羊子)



世界遺産エジプトを訪ねて

アレキサンドリア・カイロ（ギザ地区）・ルクソール・アスワン・アブシンベルと十日間の旅であった。

エジプトを語るなどあまりにも愚か過ぎるかも知れないが、旅の思い出として一筆とらせてもらいました。

歴史と伝説、そして神話の国ギリシャやトルコと深い関係のあるエジプトは力強さとロマンチズムを感じさせる国であった。

砂漠の真ん中にクフ王・カフラー王・メンカウラー王と三大ピラミッドがそびえ立っている。

数千年前の縄文時代のころにこれ程正確な測量の技術があったのだろうか？いまだにその方法は謎であるという。

砂漠といえは町から遠い所に存在していると思いがちだが、町の中に砂漠があり

砂漠通りというストリートもある。これも又圧巻である。

ピラミッドだけでなく、ナイル川沿いに幾つもの神殿が点在し、いろいろなエジプトを物語っている。

王家の谷もその一つである。カルナック神殿の夜行なわれた「音と光」のショーは、ロマンチックな演出の中にも別世界の神の国へと誘ってくれた感動のひとつであった。

カイロの考古学博物館ではファラオ達のミイラが一室又一室と所狭しと置いてある。どの顔も何か言いたそうである。肉体は滅びても再びこの世に再生できると信じていたファラオ達である。このしびれとさと情熱は、私達にも学ぶところがあると思う。

考古学博士吉村作治氏の「ワセダ・ハウス」は、遠く見える砂漠の中で立派な学校であるがなんともミスマッチだ。帰るのが惜しい旅であった。

(中志津 阿倍ヨシ子)

孔子像と楷樹

現在、学問奨励の象徴である孔子像は日本国内で、湯島聖堂をはじめ二十七体が確認されています。その一つが、佐倉高等学校内の地域交流施設に展示してあります。

佐倉藩は学問の振興に熱心でした。宝暦三年（一七五三）に佐倉十五代城主堀田正亮は、江戸城西の丸下の上屋敷内に聖堂を建立して孔子祭りを行なっています。そして、寛政四年（一七九二）に藩校佐倉学門所を開校してあります。明治四三年（一九一〇）には、堀田家の援助で現在地に移転しております。藩校ルーツの旧制佐倉中学の新校舎の落成を祝い堀田家から寄贈されたのが現在の孔子像です。そして、今もその伝統を引き継いでいます。

また、楷樹は結実まで三〇年以上要する雌雄異株です。木目が細かく規則正しいので、

楷書はこの楷樹から名付けられ、そして楷は学問の木として尊ばれています。

約二五〇〇年前、儒教の開祖でもあった孔子は、中国山東省曲阜で世を去り孔子廟に葬られました。弟子たちは三年間喪に服し、師の墓から離れる時、楷で出来た服喪哀用杖を泣きながら墓前にさしたところ、その涙によって楷が芽を出し、やがて大木になったと伝えられています。

平成一〇年（一九九八）に、孔子の七十五代直系子孫である孔祥林（孔健）氏が、孔子像を聖堂建立以来二〇〇年以上に亘って、学問奨励の象徴として手厚く守られて来たことをお知りになり、その孔子像をご覧になるため佐倉高校を訪問され、楷樹の種子を寄贈されました。そして、立派に成長しています。

皆さんも機会がありましたら、孔子像と楷樹を見に足を運ばれてはいかがでしょうか。

（並木町 松井弥彦）

殺人事件とオス

先日のNHK教育テレビで女性の生物学者が、日本のオスとしての男性の特性について語る中で、殺人事件のデータを引き合いに出していた。

どの国でもその年齢別のグラフは、二五歳をピークにマッターホルンの様な鋭い山型を描くという。又、百万人当たりの件数は（圧倒的に男が多いが）最悪の南米の国に較べ、二〇分の一、約三六人。人口一千万人超の国の中では最低クラスである。これは五〇年前の統計で、日本は現在その時の四分の一の九人まで減っているとのこと。しかも先のグラフの形もなだらかな丘のようになっていて、日本はますます安全な国になっていく。世界的に見てかなり特異なケースらしい。

しかし、これは私たちの実感と違う。母は子を殺し、秋葉原でトラックが突っ込み、

OLがアパートに連れ込まれバラバラにされトイレに流される。介護に疲れた老人が配偶者の首を絞める。新聞には毎日殺人事件が…。

しかし、事実は年々日本は安全な国になっていくのだ。特に日本の若者は凶暴でもなく、怒ることも少なく、理性的になっていくようだ。職もなく、結婚もままならないのに。そういえば四〇年前今の団地に引っ越してきた頃、深夜に暴走族の騒音に悩まされたが、今はมาแล้ว。子供が小中学生の時はシンナー取締りのパトロールもしたが、もうしていないようだ。草食動物化…？

そういえばこの女性生物学者は単性生殖の生物は沢山いて、近年盛んなクローン技術の研究が進むと、男は殆んど必要がなくなると、嬉しそうに語っていたっけ。

（中志津 奈良雅広）

8月の黒板

『なかま』の原稿を募集しています！

『なかま』の2ページと3ページは佐倉市民の皆さんから投稿いただいた記事を掲載しております。

『なかま』の原稿は、自由テーマを原則としています。「出会いと別れ」、「旅の思い出」、「祭り」、「私のふるさと」、「私の健康法」など何でも構いません。また、日常での出来事で発見したこと、気付いたこと、経験や感想などもご随意にお書きください。

原稿の字数は、650字（13字×50行）以内です。また、掲載するにあたり常用漢字への変更や、句読点等修正させていただくことがあります。

問い合わせ先

佐倉市立中央公民館 TEL 043 - 485 - 1801

〒285 - 0025 佐倉市錦木町198 - 3

さくら道

丁度六十四年前、日本は戦争によって一切の物質的資産を失いました。しかし、唯一つ残された国民の精神的な健全さが土台となって経済大国と自他ともに認めるところまで復活しました。

現在、世界的に経済体制の健全さを失い、百年来の不況に直面し、日本もこの不況からの復活を策しています。物不足の戦後より、物はある

が精神的な健全さを失ってしまった現在の現状では、戦後より一層の困難が予想されます。迂遠なようですが、精神的な健全さを一日も早く取り戻す意識が必要です。そのためには、自分たちの身近な日常生活の改善を、自分たちの手で民主的に行うのだと、念仏のように唱えながら生活していくことだと思います。

(服部一宏)



あとかぎ

「今日も暑くなりそうね」で一日の始まる夏本番！お盆の帰省、花火大会、海に山にあちらこちらで賑やかな笑い声。いつも笑い声の絶えない世の中になつてほしいと願う日々！

お孫さんとの和やかな触れ合い、お孫さん達にとつても思い出多き子供時代になることでしょう。エジプトの旅もステキでしたね。砂漠の真ん中の三大ピ

ラミッドと一緒に見ているようでした。佐倉高に由緒ある孔子像があることや、楷書が楷樹の木目から名付けられたことを知り、早速見学して来ました。土、日曜日に「地域交流施設」で見学出来ませう。近頃は信じられない事件が多く、「誰でもよかった」という言動には只只驚くばかりです。

四名の方のご投稿に深く感銘致しました。皆様からのご投稿、お待ちしております。

(栗田勢子)